

感想文特選作品紹介

「町民読書感想文・感想画コンクール」より

「第14回町民読書感想文・感想画コンクール」感想文特選作品を掲載します。今回は2回目です。

「プロジェクトX

挑戦者たち」を読んで

中央小六年 板谷雅治



プロジェクトXという番組は、テレビで何度か見たことがあって知っていた。不可能なことを可能にしてきた人達の、本当にあった話を紹介している番組だ。ほくは、学校の図書館で「プロジェクトX挑戦者たち、男たちの不屈のドラマ、瀬戸大橋世紀の難工事に挑む」という本のタイトルを見つけた時、瀬戸大橋を完成させた人達の本当にあつたすごい話にちがいないと思ひ、わくわくしながら本を手に取った。あんなに大きな橋を、川でなく海にかけるなんて神業だと思ふからだ。

と船の衝突で修学旅行生百人がぎせいになったという悲しいニュースを聞いてから、ずっとその夢を実現したいと強く心に思っていたようだ。作業はなかなかかどらなかつた。瀬戸内海の家は、杉田が思っていたよりも昼でも暗く流れも速い。その時、杉田は、「想像以上の強敵だ。」とつぶやいた。でも、自分自身で何度も海にもぐり安全な場所を確かめた所がすごいと思つた。プロのダイバーも参加してもらおうよう一しようけん命説得したことも、ふつうならとつくにあきらめていゝと思う。それに、地元の漁師たちのもう反対にも、五百回もの説明をし続けてとうとう最後には魚を死なせずにする方法を考え出した。本当に五百回も説明するなんて根性があつて、自分で決めたことは最後までやり遂げる人だなあと思ふ。

夢を実現させるために毎日いそがしくしている時に、大切な家族が病気にかかつてしまつてどんなにつらかつただろう。でも、周りの人にはだれにも言わず、心配をかけないようにしていたこともすごいと思ふ。橋の完成をきつと大切なおくさんに見せたかたにちがいない。けれど、完成前に死んでしまつて悔しかつただろう。そして、とうとう昭和六十三年四月、九百万人が十年のさい月をかけた夢の架け橋が完成した。あの痛ましい船の事故から三十三年もたち、四国、四百万人の悲願がついに実つたのだつた。

ほくも、この杉田のように、自分で決めたことは最後までやりぬく強い精神力を持ちたいと思ふ。夢はあきらめないで、一しようけん命努力すれば必ずかなうということを教えられた。ほくも、杉田のように夢を持って生きていきたい。自分も夢を見つけて、それに向かつて一直線にあきらめずに夢をかなえたい。自分も杉田を見ていて、そういう橋をつくつたりする人になつてみたいと思つた。すくたにいへんそうだけど、杉田みたいに夢はそうかんたんにかなえないであきらめないでかなえてみせる。

もつたいない

中川根中学校二年

中村遼



「勿体無い」この言葉は、僕自身よく使う言葉です。食べ物を残してしまつて勿体無い。寝過ぎてしまつて時間が勿体無い。考えていくと、色々な「勿体無い」があります。ケニアの環境副大臣である作者のワンガリ・マタイさんは、「勿体無い」の精神こそ、地球を破壊に追い込む深刻な驚異を減らすための世界へのメッセージとして大事な言葉だと言っています。「三つのR」(リデュース・リユース・リサイクル)を、たった一言で言い表しているということです。確かに、資源の無駄使いをなくし、使えるものは再利用し、そしてそうでないものはリサイクルする(イコール)この事は、「勿体無い」